

高千穂大学 教職課程だより

ご挨拶

教職課程運営委員長 松丸啓子

高千穂大学教職課程で学ばれた卒業生教員の皆様、今年度をもってご卒業される皆様、在校生の皆様、そして、様々な活動を通じて本学教職課程にご支援を賜っている皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のことと存じます。皆様の日頃からの本学教職課程運営へのご理解とご協力に対しまして、心より御礼を申し上げます。

この度、『高千穂大学 教職課程だより』第9号をお届けすることができました。この『高千穂大学 教職課程だより』の発行は平成27年度より開始されておりますが、その主たる目的は、本学の教職課程で学んだ卒業生の皆様と在校生たち、教職員その他の関係者たち相互の交流の輪を広げ、絆を深めるとともに、本学教職課程における教員養成のさらなる充実と活性化を企図することにございます。そのような趣旨からも、本年度もこうして『高千穂大学 教職課程だより』を発行することができましたことを、本学の教職課程運営に携わる者の一人として大変喜ばしく感じております。

例年2月に開催されている「教員採用試験合格報告会」につきましては、コロナ禍のためここ3年は対面での実施がかないませんでした。漸く今年度は従来通りに対面で開催することができました。おかげさまで、例年以上に活発な質疑応答が展開されるなど、非常に有意義な時間を共有することができました。しかし、通例報告会後に開催されていた「高千穂大学卒業生教員と教職履修学生との情報交換会(高千穂大学卒業生教員の会)」の方は、残念ながら開催が見送られました。一日も早く元の日常が取り戻され、「高千穂大学卒業生教員の会」も再開されることを願わずにはおられません。

また、今年度は2021年5月7日付教育職員免許法施行規則等の一部改正省令に基づき、本学においても「教職課程自己点検評価」を実施し、その報告を本学HPにおいて公表いたしております。本学教職課程の現状説明や長所・特色、課題などが記載されておりますので、ご覧いただければと存じます。本学教職課程で学ぶことで在校生たちが新しい時代に相応しい教員としての資質や能力を身につけることができるよう、さらに指導やサポートの在り方をよりよいものに改善してまいりたいと考えておりますので、お気づきの点等がございましたら、ご助言いただきますようお願いいたします。

「模擬授業室」や「教職相談室」が開設されるなど本学の教職課程関係の環境は年々整備されてきておりますが、そうした環境をフルに活用するためにも、卒業生教員の皆様との連携を一層緊密なものにできれば幸いです。今後ともぜひご支援を賜りますよう、何卒よろしく願い申し上げます。

(人間科学部)

教育実習報告会（7月16日）

2022年7月16日(土)午後12時30分より、1101教室にて、「2022年度教育実習報告会」が対面にて行われました。

「教育実習体験報告」として、IさんとSさんが小学校での実習、Sさんが中学校での実習、Mさんが高校での実習について、スケジュール、実習校の紹介、実習中の1日の生活、研究授業についての報告をしました。山田良一先生、松丸明弘先生、鈴木隆弘先生よりご講評をいただき、有意義な内容となりました。また、会場内にはじめて展示コーナー(学習指導案や実習中に役立つ書籍、文房具など)を設け、後輩の皆さんや先生方が熱心にご覧になっていました。

これから教育実習を迎える学生の皆さんには、報告会で伝えられた情報をもとに、教材研究や実習準備を地道に進めていくことが期待されます。先輩から後輩への心のこもったエールが込められていました。運営の準備してくださった実行委員の皆さん、どうもありがとうございました。

(早坂めぐみ)

学生の声

百聞は一見にしかず

商学部4年 M

去る7月16日、2022年度教育実習報告会が行われた。今回の実習報告会は昨年以上に準備期間が短いことから、昨年のようなディスカッション形式での実施は不可能であった。また、2年越し対面形式で行われることから工夫が強いられた。そこで、今年度は例年の発表以上のものとするべく、実際に実習で使用したものの展示し、発表を行う方向で準備を行ってきた。準備段階で必要なことや疑問点は実行委員、実習に行った学生等全員で共有したこともあり円滑に進めることができた。これは関係学生、実行委員の協力、早坂先生のご助言の賜物だと考える。感謝申し上げます。

さて、この展示を行った意図は、来年度以降実習に派遣される下級生の方々に「実習の準備とイメージ」をつかんで頂くことにある。「百聞は一見にしかず」という言葉があるように私たちの発表から得るものがあり準備に役立つかもしれない。しかし、それだけでは足りない。且つ、自分が実習に行かないと得られない(足りないものが発覚する)こともある。そのギャップを埋めるために行った。また、実際に使用したものがあれば実習に行く際に、何を用意し、どのように実習を行うかのイメージを明確にできると考えた。

経験をもとにした発表、実際に使用したものの展示により、昨年以上に得るものが多い発表になったと考える。実際、運営委員会の先生方からも好評だと伺った。今回の私たちの実習報告、展示品から多くのことを学び、吸収し、翌年以降の教育実習をより良い形で迎えて頂きたいと考える。

教育実習報告会に参加して、教育実習の全体像を掴むことができた。特に、教師の労働時間については考えさせられた。朝早くから作業をしていたり、実習先の先生方が遅くまで働いていたりと聞いて大変驚いた。他にも、研究授業と教材研究について印象深かった。研究授業の単元をどのように決めたのか、また、実習校で指導してくださる先生とどのように相談して、研究授業を組み立てていったのかなどについては気になったものだ。これから教育実習に向けて、研究授業のことを考えながら学んでいきたい。

教員採用試験合格報告会（2月11日）

教員採用試験合格報告会が、2019 年以来ひきびきに対面形式にて開催されました。

まず、第一部では、西山徹二副学長より開会のご挨拶をいただきました。

次に教員採用試験合格の体験報告として、神奈川県に大学推薦を受けて合格した F さん、東京教師養成塾特別選考で合格した F さん、M さん、M さんの 3 名による採用試験とそのアドバイスについて報告されました。F さんは、自身が受験する地方自治体の試験を把握し、それにあった勉強をすること、ボランティアへの参加を通じて、子どもの実情や現場の実態を理解しておくことが面接や小論文で役に立つことが報告されました。東京都の採用試験に合格した 3 名からは、東京教師養成塾について、学内選考から教員採用試験までのスケジュールと、東京教師養成塾で体験した内容、実際の活動について報告されました。塾のメリットとして、授業実践を多く積むことができるだけでなく、同じ目標を持つ大学内外の仲間と出会うことができることがあげられました。

卒業生教員による教育実践報告では、本年は 2 名の小学校教員より報告を受けることができました。

まず、N 先生(品川区小学校)にご報告をいただきました。N 先生は、東京教師養成塾出身です。塾ではとにかく学習指導案を書いたこと、その結果、大学生のうちに指導案を書くスキルを身に付けることができたことを経験としてあげ、塾の良さについて強調されました。現在の学校での実践として、子どもに見通しを持たせることをあげていました。国語では、単元の終末の活動として、音読劇や発表会を取り入れ、ゴールを明確にするとともに楽しむことができるように工夫しているとのことでした。また、避難訓練でも、毎回スライドを用意し、訓練の意義について児童自身に考えさせることで、自分の身は自分で守れる児童の育成を心がけているとのことでした。

次に、K 先生(川崎市小学校)よりご報告いただきました。K 先生からは、楽しい学級づくりを心がけていること、言葉が豊かな児童を育てるための教室環境整備などの実践が示されました。そして、なぜ自分が先生になったのか、大学時代に取り組んできたこと、取り組むべきだったと今思うことなど、教員になりたい学生に向けたエールが送られました。ブラックと言われる教育現場だが、やりがい大きいこと、「児童の『やってみる、できた！』のパワーは私の喜び。」という言葉には、現場でさまざまな苦勞をしてきた先生だからこその言葉でした。

第一部の最後に杉並区立済美教育センター所長佐藤正明先生より講評をいただき、本学で教師を目指す学生たちへのエールが送られました。

本年度は第二部として、山田良一先生より、特別講演が行われました。

山田先生は、本学初の実務家教員として本学教職課程に着任され、主に科目「教職インターンシップ」の設置とその円滑な実施にご尽力されました。しかし、任期途中には新型コロナウイルス感染症の蔓延もあり、学校での体験活動が困難になる年度もあり、大変なご苦労があったかと思えます。

特別講演では、ご自身の経歴、実践、その中での失敗と体験が述べられました。総合的な学習の時間において、学級担任として取り組まれたさまざまな活動は、現在も色あせない優れた実践の数々でした。児童にやらせたいことを書かせ、その中から年間の活動を考え、実施していくという、児童中心の「総合的な学習の時間」の展開は、学生にも現役教師にも参考になるものでした。

山田先生、本当にありがとうございました。

最後になりますが、新年度から教壇に立たれる皆さんが、これからも元気で楽しく活躍できることを、教職課程一同、心より願っております。

(鈴木隆弘)



○本年度教員採用者について

2022年度 新規教員採用者は4名(3月1日現在:教務課把握分、教諭のみ)です。
卒業生教員の皆様におかれましては、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

<小学校教諭採用>

教職インターンシップ報告会（2月11日）

高千穂大学における教職インターンシップは、教職課程を履修している学生が自ら希望する進路に応じて大学が指定した小学校、高等学校、教育行政機関等の中からインターンシップ先を選択し、就業体験を行い、これにより、自分の適性と進路を見極め、教員としての職業意識の向上と学習意欲を喚起し、能力向上を図ることを目的に2,3年生を対象に実施しています。

本年度は杉並区立済美小学校、浜田山小学校、保善高校へ5名が参加しました。保善高校では教職インターンシップ週間として、集中して9月に実施されましたが、その他は参加者の自らの履修状況と照らし合わせて、参加校と協議して実施されます。

2月に行われた報告会では、学校の組織の役割や学校行事の流れが理解できたこと、また、個別の児童との出会いから教育の大切さと難しさを実感したことなど参加者の感想が発表されました。

来年度からは新たに杉並区立高井戸小学校、杉並第二小学校が教職インターンシップ受け入れ校となりました。是非、積極的な職場体験の参加を期待しています。

（山田良一）

学生の声

教職インターンシップに参加して

人間科学部3年 T

私は教職インターンシップで、授業の進め方や児童への声の掛け方などを実際に見て、様々な場面での対応方法や教師としての在り方を学ぶことができました。特に通級の児童と関わる機会が多く、一緒に過ごしたからこそわかったことや、その児童の気持ちに寄り添うことができました。印象深く学んだことがあります。落ち着きがなくなり、教室を飛び出してしまう児童に対して、私は初め、心配で追いかけてしまいましたが、その児童は自分の気持ちを落ち着かせるために1人の時間を作っていることを知りました。私はこの体験から、何も知らずにただ追いかけるのではなく、しっかり子どもの気持ちを聞いて寄り添うことの大切さを学びました。実際に見て体験することで、自身の学びに繋がりました。また、教育実習前に、このような体験をすることができ、児童との関わり方や授業の進め方のイメージを掴むことができました。学んだことを実習や今後の生活で活かしていきたいと思えます。

退職にあたり

人間科学部 山田良一

2018年4月、高千穂大学人間科学部に着任して5年。初めての関東の地、生まれも育ちも関西ですので、当初は不安と新鮮さとドキドキ感が一杯でした。

私は大学を卒業後、3年間、民間企業で働いたのち、兵庫県内で小学校教員になりました。

本年度で教員生活40年を終えますが、今でも子ども達と出会った初めて日のことを鮮明に覚えています。4月6日、快晴、運動場で執り行われた初めての始業式。校長先生が朝礼台に立ち、教員は前に勢ぞろいして、一人ひとりが紹介される度に子ども達の列の前に立ちます。私は4年生2組の担任になることは職員会で分かっていたのですが、実際に初めて、子ども達と出会うとなるとやはり緊張しました。そして校長先生より「4年生2組 担任、山田良一先生」と紹介されると、私は大きな声で返事をして、走って子ども達の前に立ちました。小さなかわいい目が一斉にこちらに注がれました。この瞬間、「あー。この子達の先生になるんだ。」と、何とも言えない感情が全身に湧き上がってきました。

それから35年間、子ども達からたくさんのことを学ぶことができました。「光陰矢の如し」今、振り返れば本当に楽しい教師生活でした。実際には、楽しい事ばかりではなく、学校に来れない子、家庭内で問題を抱える子、いじめられる子、いじめる子、障害や重い病気を抱える子、様々な子達との出会いもありました。この子達にどう向き合えばいいのか、分からず悩む日々もありました。そんな中、民間企業で学んだ「決してあきらめないこと」を心に置き、今できることを考え取り組みました。人を育てるなどできない未熟な私でしたから、何事にも学ぶ姿勢をもてたのではないかと思います。正に「子ども達から学び、子ども達と共に成長する」ことの大切さが日々、実感できました。時には笑い、時には涙し、時には励まし合い、そんな子ども達の出会いが教師としての私を成長させてくれました。

小学校教師生活の最後、私は母校の校長として迎えられました。当時から引き継がれている校歌も懐かしく歌え、とても、不思議な人生の縁を感じました。

そして、退職後、小学校現場で子どもを育てる仕事から教員を目指す高千穂大学の学生さんと出会うことになるのです。これもまた、不思議な縁を感じました。高千穂大学での5年間は教員生活の集大成となりました。これまでの私の体験や実践が少しでも皆さんの心に届けることができているのであれば幸いです。

皆さんは大学卒業後、教員になる方も民間企業へ進む方もいますが、「あなたらしく、あなたが主人公の素敵な人生」を歩んでください。

最後に高千穂大学で出会った先生方、事務職員や警備関係の方々、全ての皆様に心より感謝を申し上げます。そして、皆様が健康に過ごされ、ご活躍されますことを祈念しております。本当にありがとうございました。

事務連絡

<本学教職課程の概要について>

(1) 取得可能な免許種

高千穂大学教職課程では、以下の免許を取得することができます。免許状はすべて一種教育職員免許状です。

学部	専攻	取得可能な免許種
商学部		高等学校(商業)／高等学校(公民)／高等学校(地理歴史)／中学校(社会)
経営学部		高等学校(商業)／高等学校(情報)
人間科学部	人間科学	
	児童教育	小学校(全科)

※ 商学部では、高等学校(情報)／ 経営学部では、高等学校(公民)(地理歴史)・中学校(社会)免許状取得も可能。

(2) 年間行事予定

教職課程では、教職課程運営委員会の下、主に以下の行事を実施しています。(予定)

月	行事	内容
4 月	履修オリエンテーション	春学期履修に向け、学年ごとに実施します。
7 月	教育実習報告会	教育実習を終えた学生から、教育実習の体験をお伺いします。
8 月	教員採用試験対策講座	教員採用を目指す3・4年生の希望者を対象に、採用試験対策講座を行っています。
9 月	履修オリエンテーション	秋学期履修に向け、学年ごとに実施します。
11 月	新規履修者オリエンテーション	新規履修希望者向けにオリエンテーションを実施しています。
2 月	教職課程新規履修者面接	教職課程新規履修希望者を対象に、面接を行い、履修の可否を決定します。
	教員採用試験合格報告会 卒業生教員の会	教員採用試験合格者及びお招きしたOB・OG教員より、合格までの道のりや教員生活の心構えなどをお話頂きます。

※教職課程履修者は「オリエンテーション」「教育実習報告会」「教員採用試験合格報告会」参加が義務付けられます。

卒業生及び卒業された皆様へ

- 勤務先の変更・ご自宅の住所変更時
 - 「学力に関する証明書」「単位取得証明書」等、証明書が必要な時
 - 教職課程及び就職支援課に対する、私立学校からの求人を知りたい時
- 以上の際には、学務部教務課までご連絡ください。

[TEL:03-3313-0146](tel:03-3313-0146) MAIL:kyoshoku@takachiho.ac.jp

<目次>

- ご挨拶…………… p.1
- 行事紹介、ご報告…………… pp.2-5
- 退職にあたり…………… p.6
- 事務連絡・奥付…………… p.7

「高千穂大学教職課程だより」第9号 2023年3月20日発行

<2022年度 教職課程運営委員会>

委員長 松丸啓子 常任委員 早坂めぐみ
委員 鈴木隆弘 委員 松丸明弘 委員 山田良一
委員 大島久幸 委員 山田浩 教務課 北田大介・進藤しおり